

CADdoctor[®] for NX

CADdoctor for NX Ver3.0

リリースノート

株式会社エリジオン

最終更新日:2017年7月6日

【ライセンスサーバのアップデートについて】

CADdoctor for NX Ver3.0 で予定しておりましたライセンスライブラリの更新は延期となりましたが、Ver3.0 を使用する際には新バージョンのライセンスサーバ(Sentinel RMS License Manager v9.1)をご使用ください。

旧バージョンのライセンスサーバ(Sentinel RMS License Manager v8.6)でも Ver3.0 を使用することは可能ですが、v8.6 での動作は正式サポートの対象外となりますので、v8.6 から v9.1 へのアップデートを未実施の場合は、ライセンスサーバをアップデートした上で Ver3.0 をご使用ください。

ライセンスサーバのアップデート方法については、ライセンスサーバのインストーラに同梱されている「セットアップ & クイックスタートガイド」を参照ください。

1. 出荷製品

CADdoctor for NX

2. バージョン

Ver3.0

3. 対応 CAD バージョン

NX9, NX10, NX11

4. 動作環境

✓ 対応 OS:NX9

Windows 7 Professional/Enterprise(64bit) SP1

Windows 8.1(64bit)

✓ 対応 OS:NX10

Windows 7 Professional/Enterprise(64bit) SP1

Windows 8.1(64bit)

Windows 10(64bit) ※NX10.0.3 以降

✓ 対応 OS:NX11

Windows 7 Professional/Enterprise(64bit) SP1

Windows 8.1(64bit)

Windows 10(64bit)

✓ 必要な CAD ライセンス

ug_checkmate, gateway, solid_modeling, assemblies, features_modeling

5. バージョンアップ内容

A) 部分修正機能の追加

Checker により検出されたエラー箇所のみを修正対象とする新たな修正機能を追加しました。部分修正機能ではフィーチャを追加してエラーを修正するため、修正実行後にフィーチャを編集することができます。

従来の修正機能(全修正機能)と新たに追加された部分修正機能の違いについては下記の表を参照ください。

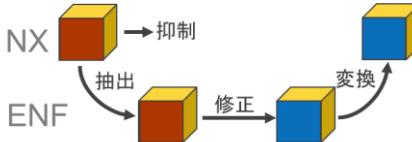
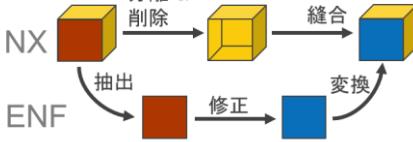
	Healer (全修正機能)	Partial Healer (部分修正機能)
修正方法	形状全体を ENF に変換して形状を修正。元形状は NX 上で抑制される 	元形状のエラー形状のみを ENF に変換して修正。元形状のエラー形状を修正後の形状と入れ替える 
メリット	PDQ エラー修正率は部分修正率よりも高い (全修正: 99%、部分修正: 95%)	修正後形状に対してフィーチャの編集が可能
デメリット	修正後にフィーチャは残るが編集不可	全修正よりも修正率は低い。部分修正実行により新たなフリーエッジが発生する場合がある

表:全修正機能と部分修正機能

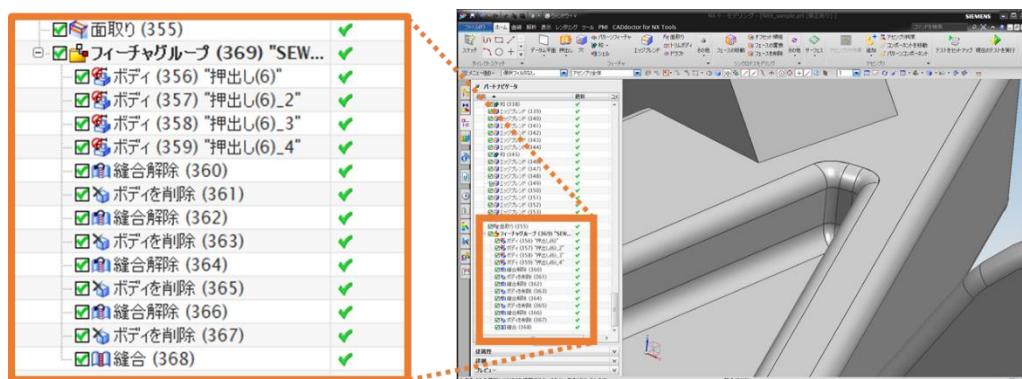


図:部分修正実行後(フィーチャの追加による形状修正)

B) ユーザーインターフェースの更新

NX 上のユーザツールの使用を廃止し、ツールバーから実行するように変更しました。

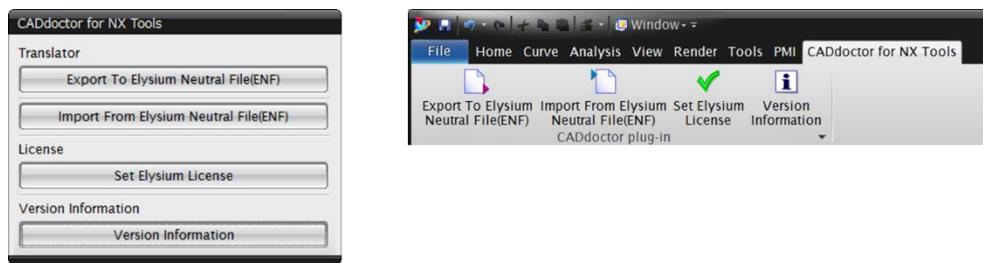


図:新旧のユーザーインターフェース(左:Ver2.1、右:Ver3.0)

C) 新 CAD バージョン対応

NX10, NX11 に対応

D) コピーインストールに対応

従来のインストーラの実行によるインストールに加え、モジュールコピーによるインストールにも対応しました。

6. 制限事項

特になし。

7. 留意点

- ✓ NX+Teamcenter の環境にて CADdoctor for NX Ver3.0 を使用した場合、以下の現象が報告されています。
 - 対象パートの指定方法として「ディレクトリ内のすべてのパート」を選択して全修正または部分修正を実行すると、一部のパートに対して修正機能が実行されない。
 - 全修正を実行しても修正後形状が作成されない。
 - 「モデリング」アプリケーションにて全修正または部分修正を実行すると、実行後に「モデリング」アプリケーションとは異なるアプリケーションに変化する。
- ✓ NX 単体の環境にて CADdoctor for NX Ver3.0 を使用した場合、以下の現象が報告されています。
 - アセンブリの子パートを作業パートにし、対象パートの指定方法として「現在のパート」を選択して全修正を実行しても修正機能が実行されない。
 - 対象パートの指定方法として「ディレクトリ内のすべてのパート」を選択し、かつ該当パートを NX で既に開いた状態で修正機能を実行するとエラーとなる。
- ✓ Healer 実行時、環境によって修正が終了しない現象が報告されています。
(回避策)
環境変数 ELY_CDRNX_SKIP_REGENERATE_DISPLAY=1 を設定、あるいは
ELY_CDRNX_TEMP_DIR で指定した TEMP フォルダに skip_regenereate_display と

いう名前のファイル(拡張子無し)を置くことで現象を回避できます。

8. 著作権とライセンス

サードパーティ製ソフトウェアの著作権とライセンスについては、以下のパスをご参照ください。

- ✓ <CD-ROM>\document\LICENSE\credits.txt
- ✓ <CD-ROM>\document\LICENSE\XERCES_LICENSE.txt

以上